

第12回 能美市タウンミーティング

平成29年8月25日（金）19:30～21:30

辰口福祉会館

【司会】

ただいまから辰口地区10町会のタウンミーティングを始めさせていただきます。

まず初めに、ご参加の皆様を代表しまして、緑が丘町会長様にご挨拶をいただきたいと思います。

【緑が丘町会長】

きょうは久常地区の8町会と、それから緑が丘、松が岡の合計10町会と井出市長さんのタウンミーティングです。井出市長さんには、大変お忙しいところありがとうございます。お集まりの皆様方、ありがとうございます。

井出市長さんにはこのような機会、皆さんの声を聞く機会を設けていただきまして、大変ありがたく思っています。これまでいろいろなタウンミーティングがあり、似通った内容もあるかと思います。今後、そういった中でいろんな意見もまだほかにありますので、いろいろ市政に反映させていただければよいかと思います。

能美市のこれからの市政に反映してもらうために、皆さん、どしどし積極的な意見をよろしくお願いします。

【司会】

次に、井出市長がご挨拶を申し上げます。

【井出市長】

金曜日のお疲れのところ、こんなに大勢の皆様にお集まりをいただきましたことにまずは御礼を申し上げます。

今までいろんな場所でタウンミーティングをやってきましたが、一番広い場所ではないかなと思いますし、そしてこのスクリーンも今までの5倍ぐらい大きなスクリーンです。また、皆様方にいろんなお話をさせていただければと思います。

先ほど会長様からいろんな似通った質問があるのではないかというお話がありました。実は今回、たくさんの質問をいただいています、そのほとんどが新しい切り口の質問ばかりです。改めて皆様方がいろんなことにご関心を持たれているということにも御礼を申し上げます。

実は能美市の人口というのは、昨年10月に5万人を超えまして、大々的にセレモニーをおこないました。その後、5万人を切りまして、ずっと4万9,900人台でした。ところが7月になり、7月6日が大安、そして7月7日が七夕で多くの婚姻届が出されまして、その日を皮切りに5万人を超えました。きょう現在5万73人という人口を維持しています。どうして七夕の日にたくさん婚姻届が出たのか、その後どこで人口がふえているのかということ进行分析しており、またそんなことを皆さんにご紹介させていただきながら、この能美市の人口の維持に努めていきたいと思っています。

冒頭、私のほうから少しだけ能美市のことを、今、市役所で何をやっているのかということを紹介させていただければと思います。

まず、このタウンミーティングを継続して開催しています。これは私の政治信条である「現地現場主義」「市民ファースト」を貫くため、多くの皆様方からご意見を頂戴し、それを市政に反映させていきたいと思っています。

先ほど人口5万人を超えていると言いましたが、実は少子・高齢化を迎え、人口が減っていきます。このままですと2040年には4万7,300人になってしまいますが、それを何とか4万8,800人にできないかということでいろんな政策をやっています。人口が減るだけではなく、高齢化も進みます。今は高齢化率というのは25%ですが、2040年には32%になってしまうということで、日本全国どこへ行ってもこういう現象です。

それを何とかしたいという思いの中で、10年後に向けて能美市の魅力を発掘、発信しているということです。

発掘、発信することによってどんなことが生まれるのかといいますと、まず一つは、移住・定住の促進です。能美市に住んでいる方がこの能美市に魅力を感じて、ずっとこのまま能美市に住みたい、また能美市に住んでみたい、移り住んでみたいと、思っただけのようにやっていきたいと思っています。

働き口がないと移住・定住が進まないのので、企業誘致や地場産業の振興にも努めていきたいです。これは雇用の場の確保ということだけではなくて、行政のいろんな政策を進めていく上で、財源の確保にもつながります。

そしてふるさと愛の醸成も進めていきたいと思っています。例えば辰口中学校を卒業して県内の高校に進学し、首都圏の大学に行き、そのまま首都圏の企業に就職をしようかなと、迷っている子に、「そんなこと言わないで、もう1回、松が岡、緑が丘、徳久へ戻ってきてほしい」と言って戻ってきてもらうには、やっぱりその子供たちにそのまちの魅力をわ

かってもらわないといけません。ですから、小中学生のうちからこの能美市の魅力というものをしっかりと伝えて、ふるさと愛の醸成をしていきたいということで、この能美市の魅力を発掘、発信していきたいことをやっています。

能美市というのは、皆さんこうやって漢字で見れば当たり前のように「のみし」と読めますが、東京のほうに行くと、「のうみし」と読まれることが多いです。

実は住みよさランキングに4年連続トップテン入りしていますが、魅力度や認知度は全国で400番台、600番台だったりします。魅力を発信、発掘していくためにはこの能美市というブランドを高めていく必要があるということで、ポスターをつくりました。これはこの辰口福祉会館にも張ってあります。これまで東京駅や京都駅、大阪駅、金沢駅、小松空港、高速道路のサービスエリア等にも張りしました。

このポスターというのは、能美市の観光特使に大成町ご出身の藤田誠さんという方がいらっしゃるしまして、アサヒビールのコマーシャルをつくった大変有名なアートディレクターです。その人と、石川県能登町出身の梅佳代さんに能美市を象徴するポスターをつくってくれないかをお願いしたところ、能美市というのは子育て環境が素晴らしい市であり、それを象徴するのは子供たちの笑顔だということで、辰口中央小学校に行って写真を撮ってくれたものをポスターにしました。

このポスターにはQRコードが張ってあり、携帯電話をかざすとすぐの能美市のホームページにアクセスするようになっています。このポスターのおかげで、能美市のホームページをごらんいただく件数が増えています。それだけ能美市のブランド力が、少しずつですけれども高まっているということです。

それで、ビデオも7本つくりました。今、n o m i チャンネルで流していますし、能美市のホームページにも流してまして、大変皆さんからご好評をいただいております。

先日、辰口中央小学校に行ってきました。辰口中央小学校というのは本当に明るくて、子供たちが「こんにちは」「こんにちは」って、本当に大きな声を出して満面の笑顔で我々に挨拶をしてくれました。

ポスターやビデオに出てくれている子供たちと一緒に写真を撮って、「ねえねえ、みんな、ああやってポスターやビデオに出て何か人生変わった？」って聞いたら「何も変わらん」って言われました。「絶対将来何かいいことあるぞ。どっかから映画か何か出てくれるっていうオファーもあるかもしれんぞ」ってみんなに言っていたんですが、何しろ本当にみんな明るく、私は改めて、この子供たちの笑顔のためにも頑張っていかなければならない

なという思いを新たにした次第です。

この能美市の魅力を発掘、発信するということで、皆さん方にも能美市の魅力というのはこんなことがあるだろうということがいろいろあると思います。ちょっと今、私が思い浮かぶこの能美市の魅力をここに述べます。

例えば、子育て環境が素晴らしい。福祉や医療の制度が充実している。自然景観が素晴らしい。自然災害が少ない。例えば能美市には震度4以上の地震というのは、10年前の能登沖地震以来ありません。それから、天気予報で台風が来るということがありますがけれども、いつの間にか白山が守ってくれているという状況です。

コンパクトで町会・町内会の組織がしっかりしている。能美市というのは、84平方キロメートルの中に74の町会・町内会があります。町会・町内会長さんのおかげで市の行政が運営されているということを改めて感謝を申し上げます。本当にいろんな面でお助けをいただいているところです。

文化や各種団体の活動が大変盛んであるということ。きょうこの辰口福祉会館はほかの部屋もほとんど満室です。それだけ地域のコミュニケーションが進んでおり、まちづくり等々の興味が深いということのあらわれだと思います。

ものづくりのまち、一部上場企業の工場があります。

交通アクセスが便利です。例えばここからだと小松空港まで20分で行けます。小松空港まで行くと、札幌、仙台、東京、羽田、福岡、沖縄に行けます。それから海外も3カ国行けます。それから国道8号、加賀産業道路もあり、今度、タントの前の道は加賀海浜産業道路という道路になります。今、タントがあって、野球場があって、福島町で丁字路になっていますが、あれがそのまま真っすぐ抜けて、手取川にもう1本橋ができて、最終的には金沢港まで直行できる道になります。そして来年の3月には能美根上スマートインターチェンジができます。それから金沢港まで約40分で行けると思いますが、今、金沢港にはクルーズ船がたくさん来ていまして、ことしはたしか54本来るはずです。クルーズ船の旅にここから行けるという利便性があります。あとはものづくりのまちということでもありますし、物流のアクセスも向上しています。

特産品ということで、ユズや丸いも、お酒、九谷焼等々があります。観光資源ということで、ご当地でいけば動物園、温泉があります。JAIST、それから寺井高校もあります。

各種ランキングが上位だということが、私にとってはこの能美市の魅力ではないかなと

思っています。

ただ、いいところばかりではありません。厳しい財政状況ということで、福祉費が年々上昇しており、どうしても新しい建物を建てるということが難しくなっています。

それから、「アセットマネジメント」と書いてありますが、これは老朽化した公共施設や設備を直していくということです。市内には約430キロの上水道管が張りめぐらされています。それを直すのに数十年かかります。

それから、今回のタウンミーティングで一番多く皆さんからご要望が多いのが、のみバス、公共交通のアクセスです。これを何とかしてくれという声が一番多いです。

また、広域連携の強化ということで、人口が減ってきますと、やはり能美市単独では行政サービスを維持できないということになります。近隣の白山市や小松市や川北町と連携を強化していくということが課題であります。

この魅力を発信していくということを今総じてシティプロモーションという言葉で称しまして、いろんなことをやっています。

能美市の本庁舎1階のギャラリーは今まで余り使われてなかったのですが、今後、ここに能美市の特産品や能美市の工場でつくっている製品を並べる準備を今始めています。加えて、例えば書道展や生け花展をやって多くの市民の皆様に来ていただき、それから県外のお客さんもたくさんいらっしゃるので能美市の魅力をここで感じてもらいたいと思います。

それから、「広報能美」も変えました。今、74町会・町内会がありますが町会・町内会長の皆さんに登場して自身の町のPRをしていただいています。そうやってご自身の町をPRすることによって、今までは、校下の皆さんも知らなかったことを、広報をみることで認識している方もいるでしょうし、その町民の皆さんも改めて自分の町のことを見ていただけるような、そんなきっかけづくりにもなると思っています。ただ、ひと月に3つの町会しか載りません。74ありますから3年かかります。その辺はお許しをいただきまして、ただ、3年の間で皆さんの町会が必ず紹介されますので、待っていただければと思います。

以上、能美市が今やっていることを申し上げましたが、そんなことをやりながら何とかこの能美市の発展に向けてやっていきたいと思っています。

【司会】 それでは、“井出市長と語ろう「10年後の未来」”をテーマに皆様からご提案、

ご意見を頂戴してまいりたいと思います。

進め方としましては、私からテーマを申し上げますので、それについて皆様からご発言いただきます。そして、井出市長が返答や意見を述べさせていただきます。

① 学校教育の充実について

【司会】

最初のテーマは、学校教育の充実についてです。ご提案、ご意見ある方は挙手をお願いします。

【下開発町民】

学校教育の充実ですが、小学校、中学校までは義務教育の期間内ですので塾や習い事の送迎も含めて対応できると思います。しかし市内の高校が寺井高校しかない現状で、子供たちは小松や金沢方面の校区を選択していると思います。塾やクラブ活動を含めて帰りの時間帯など、大変苦勞されているのが現状だと思います。

「10年後の未来」ということで、中学校卒業後の、特に高校生活における学校教育の一環として自覚、目標を持たせる教育が必要だと思いますが、能美市としてのビジョンがあればひとつお願いします。

【井出市長】

高校の教育に対して我々能美市行政がそこに絡んでいくことは大変難しいということですが、しかし、今ご指摘のように、やはり高校生にもふるさと愛を醸成させるようなことに取り組んでいきたいという思いは変わりません。ただ、その中で高校の授業は本当に目いっぱい入っており、そこにどう組み入れていくかということが課題だと思います。

例えば寺井高校で言えば、地元には高校があるので、九谷焼などに携わることがあったり、先日も寺井高校の美術部にのみバスの新しいキャラクターをつくってもらったりと、能美市のいろんな活動に携わるということはやってきました。では、泉丘高校や小松高校や星稜高校にも同じことができるかという、それはなかなか難しいということは多分ご理解をいただけるのではないかと思います。

そうしますと、例えば時間外でどんなことをしていくかということだと思いますが、今、能美市では小中学生を対象にジュニアサークルをやっておりまして、その高校生を対象にした版をできないか1回検討したいと思っています。それから、J A I S T（北陸先端科学技術大学院大学）があります。そちらにいろいろ協力を仰いで、例えばJ A I S Tで

やっている魅力的な研究に能美市内にいる高校生が広く携わるようなこともできないかなと思っています。

そして、やはり私とすれば、もう1回能美市に戻ってきてもらいたいという思いがあります。それをどうやっていくかということなのですが、進学するタイミング、それから就職するタイミングで子供たちやその保護者の皆さんへ、例えばこんな就職先がある、能美市にはこんな魅力があるという情報を直接送信したいと思います。戻ってきたいと思うような、戻ってきてもらえるような、そんな企業、就職先があるということを紹介したいなと思っています。

それから、能美市の中学生が中学校を卒業後、初めて一堂に会するのは成人式と聞いています。その成人式でビデオを流すなど工夫して、この能美市の魅力に触れてもらえるようなことをしていきたいと思っています。

【司会】

そのほか、このテーマについてご意見、ご提案ある方いらっしゃいましたらお願いします。

【北市町民】

学校教育の話です。先ほど、挨拶を非常にはきはきとしてくれるというお話がありました。今からのことですが、そろそろゆとり教育で育った世代が親になってくる時代だと思います。ゆとり教育は国の政策かもしれませんが、失敗だったと言われています。「失敗だった人はどうすればいいのか」とうちの娘も言っています。そういう子供たちが今からどんどん大きくなってくると思います。その辺の教育には、やっぱり挨拶が大事だと思います。人権委員の方は、人権って何だということを聞かれたときに、人権とは挨拶であるとすきっと答えられます。そういうふうにして教育も、能美市の教育はこれだというように、10年後を見つめて子供の教育ができたらと思います。

それから、もう1点、農業関係について、5年、10年先どうなるか非常に心配です。もう平均年齢70過ぎの人ばかりが農業をやっています。どういうふうに能美市の農業を活性化させていくかということで、産学官で連携して何かできないでしょうか。能美市は山など自然も豊かで、いろんな施設もあります。その中で放牧場や九谷焼、温泉を組み合わせ山駅というように、川北町や白山市などこの辺りでまとめて一つのシステムをつくって、ネット社会ですからネットに訴えて何かできないものか、考えていただけたらなと

思います。

【井出市長】

教育と農業の２部門のことについてのご質問でした。

まず、教育のことから回答したいと思います。私の思いの中では、教育は、家庭、地域、そして学校、この３つが連携してやらないと子供は育っていかないと思っています。能美市ではコミュニティ・スクールと銘打った政策を展開しています。まさに今申し上げた家庭と地域、それから学校が三位一体となって教育に取り組んでいくということをしています。

また、ふるさと学習をもっと充実をさせようということで、学校の中で、例えば地域で農産物を育てているところに出かけていって実際に携わってみたり、それから地域の中で活躍している有識者の方に学校の先生になってもらって地域のことをいろいろ教えてもらったりしています。このようなふるさと愛を育む教育をして、心の豊かな、そして勉強にも興味がある、そんな子供を育てていくことが、私は教育の一番大切な根幹ではないかなと思い、取り組んでいるところです。

それから、農業について、これは本当に大変難しい問題です。昔は水稻をつくっていればある程度もうかるという時代でしたが、やはり今は食が多様化し、米離れが進んでいる。

そんな中で米にかわるものをどうやってつくっていくのかということが一つの大きなテーマだと思います。能美市の中では麦、ご当地でしたらユズもあります。それから丸いもなどを転作しており、能美市としても作物を特定して手厚く補助をおこなっています。また、単品で売るわけではなくて、６次産業化をして新しい製品にしてさらに魅力のあるものにできないかということもやっています。その６次産業化にも今いろんな助成金を出していて、これまで12品目の新しいブランドができ、今のところ好調に維持しています。

そして、水稻に関しては、ある程度集団化していかないとやはりコストも下げられないということもあり、集落営農を推進し、そして県の農業試験場とタイアップして省力化や歩留まり向上などにも支援したいと思っています。

そして持論ですが、農業というのは食料自給率という問題だけではなくて、能美市の、もっと言えば日本の自然景観を維持するためには、やはりこの田園風景というのは守っていかなくてはならないと思っているので、自然景観を守るという点からもこの農業に対してこれからの支援策をしっかりと残していきたいと思っています。

② 高齢者福祉の充実について

【司会】

次のテーマは、高齢者福祉の充実についてです。

【緑が丘住民】

緑が丘に在住して、ことしで24年目になります。今の緑が丘の現状を見ますと、先ほど市長からのお話があったとおり、少子化による人口減少と高齢化が進み、20年後の予測では高齢化率が38%になると言われています。緑が丘の数字で、介護長寿課で出していたものを今使っています。この38%という数字を市と比較すると、市が32%、それから県の数字が36%になります。その数字を比較しただけでも緑が丘は、20年後には非常に高齢化率が高くなります。それと独居老人が増加していくことを非常に危惧しています。まだ若い世代、それから自分が健康なうちはまだいいのですが、一旦病気になった場合には非常に困ったことになると思います。

緑が丘というのは、ほかの町会と違い、新興住宅団地ですからまだまだコミュニティとしての団結力が弱いと私は思っています。隣近所とのつながりが希薄な面も否めません。

「隣は何をする人ぞ」というほど希薄だとは思っていませんが、あくまでもやっぱり寄り合い世帯ですから、遠くの親戚より近くの他人となるまでにはまだまだ私は時間がかかると思っています。

町会独自でもいろんなことを考えてはいますが、町単独、町会単独の努力にもおのずから限界があります。運転免許証を返納した途端、買い物に行ったり、それから病院へ行ったりするのに非常に困ったことになります。足の確保としてのみバス運用の仕方をいま一度見直す、あるいはそれにかわるべき手段を考えていただければありがたいなと思っています。

また、それから能美市が目指している包括ケアシステムをさらに強力に推し進めていただいて、生活支援、それから介護予防サービスの充実を図っていただきたいなと思っています。

【井出市長】

たくさんご質問をいただきました。まず緑が丘、これは能美市内で第2番目に大きな町であり、今ほどいろんなお話もいただきましたが、新しい公民館ができて、神社もできて、この間、辰口じょんがら祭りで優勝もされました。私は緑が丘ってなかなかすばらしい町だと思っています。

その高齢者対策をどうするかというお話でした。能美市、また全国的にも、いわゆる自助、公助、互助、共助という4つの考え方があり、それぞれにおいて皆さんで協働して高齢者対策に取り組んでいこうというのが大きな流れです。そこには今まで住みなれたところでずっと住んでいただく、老後をそこで過ごしていただくというテーマがあり、それに向かっていろんな政策をやっているところです。最後に質問をいただきました地域包括ケアというのは、まさにそういったことであり、能美市の中でも、例えばいきいきサロンなど、地域の公民館を借りて、そこに高齢者の方で集まって地域のコミュニティをさらに深めていただいたり、健康づくりを増進させたりといった取り組みをしています。それから、高齢者ちょこっとお助け事業といって、何かあれば誰かが飛んでいくという仕組みもあります。

実は結構たくさんいろんなメニューがありますが、なかなか能美市がPR下手なのか、きちんと皆さんにお伝えし切れていないなと思っています。「このようなものがあります」、「こんな困り事に対してはこれがあります」といったメニューを結構そろえているので、一度、高齢者支援センターに聞いてみるか行ってみていただけると、こんなメニューがあったのかということも実感していただけたと思います。もし、またこのようなメニューが欲しいというものがあれば、お伝えをしていただければと思います。

それから、のみバスの件です。これは先ほど申し上げたように、本当にたくさんのご意見、ご要望をいただいています。実はのみバスは、市民の皆様にアンケート調査をして、そのアンケート調査に基づいてダイヤとルートを決めています。決めた後も実際に能美市の職員がそのバスに乗って、乗ってらっしゃる方に直接話を聞いて、修正をしています。このようにして今のこのダイヤとルートがあります。しかし、やはりまだまだ皆さんから「もっと何とかしてほしい」というお声をいただいています。

今、のみバスは6台あり、うち3台が連携バスといって、根上と寺井と辰口を結んでいるバスです。それから残りの3台が辰口循環、寺井循環、根上循環バスとして走っています。どう見ても、やはり今の体系だけでは皆さんのご要望全てにお応えできないのではないかなということです。その一方で、能美市内のあるところでは、地域の皆さんがNPO法人を立ち上げて、その町の皆さんが買い物に行くことをサポートする事業が立ち上がっているという話を聞いています。

今、のみバスをどうしようかということをもう1回見つめ直して、考え直しています。ほかの地域にいろんな形態があるので、勉強をしています。もうちょっとだけ待っていた

だいて、そしてこのタウンミーティングなどを通して多くの皆さんからご意見を頂戴した後に、新しい公共交通の仕組みをまた皆さんにご相談したいと思いますので、何とぞお許しをいただければと思います。よろしくお願いします。

【司会】

そのほかこのテーマについてご意見、ご提案をお願いします。

【下開発町民】

同じく高齢者福祉の充実というテーマです。民生委員をしています。よろしくお願いします。

少子・高齢化社会が進む中、高齢者家族やひとり暮らし高齢者の方が今後ふえると予想されます。これは私も含めてのことですが、特にひとり暮らしの高齢者の方は、元気のある人は畑仕事をされていますが、そうでない足腰の弱った方はだんだん家の中に閉じこもり、隣近所や町内の人たちとのつき合い、交流がなくなり、町内の行事にも気持ち的におっくうになり家から出なくなる傾向が見られます。このような人たちをどのように支えたらよいか、今後の課題です。

行政として今後どういう考え方を持っているのか、またいいアイデアがありましたらお伺いしたいと思います。

【井出市長】

今ご質問をいただいた内容と一部重複することもあると思いますが、やはり自助、公助、互助、共助というものをいかにバランスよくやっていくかということだと思います。ご家庭でできないこと、それから町会でできないこと、あるいはNPO法人などでできないこと、あるいはどこにお願いしてもやれないことがあると思います。そのようないろんな課題をそのご家庭、それから地域の皆さん、町会・町内会あるいは我々行政と共有して、そして一緒になって考えて、政策をとっていくことが大事ではないかなと思っています。

今、能美市では「我が事・丸ごと」推進プロジェクトというのがあり、まさにそのお困りのことを自分のことのように捉えて、そして一緒になって考えていこうということをやっています。今、そのメニューもたくさんあり、先ほどちょっとご紹介させていただきましたが、高齢者支援センターや能美市でそんなメニューをたくさんそろえています。またそんなところを一度のぞいていただいて、こんなことをすればいいのではないかな、こんなことで困っているということを、直接お声がけをいただいて教えていただければと思います。

【司会】

そのほか、このテーマについてご意見等お願いします。

【上清水町民】

もう市長さんにはほとんど高齢者福祉のお答えをいただいたような気がしていますが、ちょっとだけお願いします。

きのう、たまたま自分の町で高齢者の、「のみ活」だとおもいますが、そういう行事がありました。そこで悩みと困っていることがないか、メモ用紙に書いていただきました。13名の回答があり、もちろん幸せだという方はいらっしゃいました。しかし、やっぱり寂しいというのがありました。家族もいてよくしてもらっているが、寂しいという方が何人かいらっしゃいました。それから、やっぱり一番多いのが健康のことです。今は何とかなっているが、そのうちということです。それと、ご自分はもちろんですけどもご自分のご主人が、やっぱり不安を抱えていらっしゃる。それから、車に乗れなくなったら買い物に行けなくなるということも多くありました。今の話については市長さんのご回答をいただいております。

やはり高齢者お二人だけの家庭が多くあります。お一人の家庭もたくさんあります。空き家もあります。それから10年先行きますともっと年寄りがふえる、そうなってくると介護サービスの体制をどうしていけばいいのか、あるいは施設の問題も出てくるのではないかなと思います。私は今元気な高齢者の皆さんがより元気に動けるような何かを一番やってほしいと思います。要するに健康増進みたいな形です。そのようなこともやらなければならないかなと思っているので、市として十分お答えいただいたように思いますが、ここはやっぱり力を入れてしなければと思っていることがあればまたよろしくお願いします。

【井出市長】

またいろんな角度からご質問をいただきました。最初に、空き家の件を少し紹介したいと思います。

空き家もだんだんふえており、平成25年度の調査では、能美市内には約400軒余りの空き家があります。ただ、空き家バンクに登録されているのはそのうちの12軒です。空き家バンクは、空き家を活用したいという方が登録されるところです。12軒しか登録がありません。このギャップって何だろうということで聞いていると、空き家だが、人に譲りたいとか何とか活用したいという方がそれほど多くないというのが実態です。やはり自分で持っておきたい、将来何か活用できるのではないかと考えて持っていらっしゃる方が多いです。

今、それを何とかしなければならぬと思い、条例をつくりたいなということで準備を進めています。その辺りはまた町会長さん、皆さんにご相談をさせていただいて、何とか空き家を減らす、活用するというこゝもしていきたいと思ひます。

それから、健康づくりをどうするかというお話もありました。まず、高齢者の方の健康づくりといひますと、たくさんメニューがあります。「能美市安心のてびき」というものがあり、いろんなメニューが載っているのゝ、それをご活用いただければなと思ひます。

それから、我々世代、今健康な人にこのまゝ健康でいてもらうためにどうしていこうかという政策も私は重要だと思ひます。実は、厚生労働省が発表した健康づくりのランキングがあり、日本に約1,700の市町がありますが、能美市が第30位、県内では1位に選ばれました。健康づくりを頑張っているという評価をいただきました。これは、まずいろんな健康づくりのためのメニューが多いということがあります。そして国民健康保険の方は、健康診断の結果を、市役所のほうでチェックします。それで要検診、それから検査を促すような結果だと能美市の職員がちゃんと「要検査ですけれども、再検査行きましたか」というフォローをしています。行ったか行かないかだけじゃなくて、その内容もチェックして、それで行かなかったら「ぜひ行ってください」ということまでしています。そんなことをしながら、健康づくりを推進しており、そんなことを評価していただいたということです。

それから、がんにならないようにするということはなかなか難しいので、早期治療が大切だということになると、がん検診の受診率を高めることが大切だと思ひます。受診率を高める取り組みもやっているので、高齢者の方はこういったメニューを見て、ご自身に合ったところに参加していただければなと思ひます。それから今、健康だという方は健康づくりのメニューにも参加して、それからぜひがん検診等にも行っていただきたいので、そんなところを重点的にやっていきたいと思ひます。

③ 市民目線による行政運営について

【司会】

次のテーマは、市民目線による行政運営についてです。

【松が岡住民】

市民目線による行政運営ということで、ちょっと項目がたくさんありますが、事前に届けた項目について回答いただければありがたいと思ひます。

ある人に言わせますと「町会長の意見は、それは苦情であり文句である」とご指摘される方もいらっしゃいました。ただ、10年後を語る前に、10年後のために何をするかということがやはり今一番大事なことでなと思っていますので、耳が痛いと思いますが聞いていただきたいと思います。

私は今年度初めて町会長になりました。（町会長になってから）やがて8カ月経とうかという状況です。ですから市政に関しては初心者ということを踏まえていただきたいと思います。もう一つ、先ほど緑が丘のほうでお話がありましたが、典型的な住宅団地ですから、小さいころから一緒という方はほとんどいません。ですからコミュニティとしてのつながりは希薄であるというこの2点を踏まえて、これからお話しすることを聞いていただきたいと思います。

最初に申し上げたいのは、市の施策について、市役所内部での意見集約を図っていただきたいということです。これは地区の町会長会議、連合会等もそうですが、必ず各課からの依頼あるいは報告事項があります。それぞれの部署がそれぞれ発表、発言しているという状況が大いに見られます。

これは一例です。4月13日の連合町会長会議で危機管理課からのお知らせとお願いがあり、その中に避難行動要支援者名簿の作成という項目がありました。そこには、「災害対策基本法の改正により作成、災害時の避難支援等にお役立てください。内容は、従来の福祉見守りあんしんマップと同じです」とありました。一方、福祉課から3月17日付で事務連絡で、福祉見守りあんしんマップの項目があり、そこには、「市が保有する防災福祉台帳には地域への情報提供に同意されなかった方等を含めた要配慮者情報を掲載しております。災害等の緊急時には、その状況に応じて連絡をとりながら対応することとしますので、ご了解をお願いします」とあります。だとしたら、町会に対して情報開示されていない要配慮者は市のほうで災害時に面倒を見ていただけるのかどうか、町会はタッチしなくていいかということについて、いまだに説明がなされていません。

次の提案は委嘱委員が多いことについてです。これから順次新しい委嘱委員の推薦を依頼されるかと思いますが、生活環境課では交通安全協会代理人2名、街頭交通推進隊2名、防犯委員会2名、環境美化推進員2名、交通安全協会と防犯委員会は同時にその役員あるいは理事に松が岡になることになっています。ちなみに、地区町会長会議も役員に毎年あります。あと交通安全協会は基本、各地区150世帯に1人、それから環境美化推進員については基本200世帯ごとに1人という要望があります。そのほかに、これは健康推進課のほう

で健康づくり推進員というのがあり、これが1名、民生委員・児童委員1名、それから、これは社会福祉協議会のほうから、福祉推進員2名、合わせて12名です。12名というと余り多いとは感じられませんが、町会の運営組織として、班長30人、町内会長5人、この35人は毎年交代です。そのほかに12名ということですから、よほどのコミュニティとしてのつながりがなければかなり難しい問題だと思います。まして、これから高齢化が進む中で、就業年齢、実働年齢が70歳近くになっていくということになると、そういう方たちが兼業で委嘱委員あるいは町の役員をするということはかなり難しいわけです。それともう一つは、今、高齢者である方が超高齢者になるというところで、やはり松が岡の中でも町会にかかわる人材が枯渇するのではないかという懸念があります。ですから、そういう意味では簡素化していただきたい。

先ほど市長が「市民ファースト」と言われましたが、私どものほうは「松が岡ファースト」ということで基本的にはやっていきたいと思います。町会の規約の中に、「本会は、会員相互の親睦を図るとともに、町内の健全、明朗な快適環境づくりを推進するために地域的な協働活動を行い、松が岡町内、能美市の発展に供することを目的とする」と。事業の中に、「本会は、広域的問題に対処するため、能美市の町会及び自治公民館の連合組織に参加する」という一文がありますけれども、基本はやっぱり自分たちの町会ファーストということでこれからやっていきたいと思っております。

それから、3番目は、市職員のレベルアップということで、第2次能美市総合計画の中に市民目線による行政運営という項目があり、その現状・課題の中に3つ指摘されています。1つ目は、行政サービスの担い手としての心構えや業務遂行能力、2つ目は説明のわかりやすさ、3つ目は迅速・的確な対応ということが示されています。こちらのほうをぜひお願いしたいと思っています。

2例を申し上げますと、実は私、ことし、防火管理者の講習を受けました。前任者から、これは半額、市からの補助が受けられるということでその手続をしましたが、後日、担当課のほうから、「誠に申し訳ありません。要綱は抜粋なので、そこには書いてないですが、一度補助すると3年間は補助を受けられないのです。」というお話がありました。そんなにかないケースかもしれませんが、公民館の運営に当たっては必ず防火管理者が要るわけですし、それが交代するということになる、急いで取得することになります。この点は今回の要望を見て、この例外規定が載ってなければ非常に問題だと思います。

もう1点は、市と町内会との窓口、これを一本化していただきたい。ワンストップとい

う意味です。現在、私いろいろな市役所職員の方とお会いして話をして、そうする中で、よく物を知っている、信用できる方に聞いています。これは余りよろしくないのではないかなと思っていますので、やはり人づくりについてはぜひお願いしたいと思います。

最後に、やはり各町会に対して個別具体的なご指導をお願いしたいということです。一般論はもう結構です。松が岡についてはこれ、これに関してはこういうふうにやってください、やったほうがいいですよというようにしていただきたいと思います。

例えば防災の見地から、せんだって募集がありましたが、松が岡は防災士の人数は人口割からいうと6人必要だということです。現在3人だからあと3人足りませんという機械的な計算で募っているわけです。本当に防災士をそろえたら災害を防げるかどうか非常に疑問です。それから、先ほど市長がおっしゃったように自然災害が非常に少ない地域ですが、災害のときは松が岡では一番何が危ないでしょうかということになります。そういうところを具体的に周知していただきたいと思います。先ほどから話題に出ていますが、福祉見守りあんしんマップでの要支援者は松が岡で45人いらっしゃいます。世帯数にしますともう少し少なくなるわけですが、こういう方の救助を最優先に考えていくということが必要だと思います。

【井出市長】

たくさんご質問をいただきました。一つずつお答えをしていきたいと思います。

まず、ご質問の中で一番大きく占めるのは、町会と市役所との接点をどうするかということだと思います。

最初におっしゃった、防災の件と健康福祉部が説明したことにそごがあったのではないかというご指摘ですが、ぜひそこは一度しっかり検証して、今後そのようなことがないようにこちらのほうで見ていきたいと思います。

ワンストップというお話もありました。これも実態を調べました。確かに町内会長、町会長さんが、いろんな部署に行っているという実態を把握しました。次回の9月の辰口地区の町会長の皆さんが集まるときに、市のほうから今後どうすればいいのだろうというご提案とご相談をさせていただきます。そのときにまた一度、こんなことをしてもらえたらどうかとか、こんなところが課題だよということをおっしゃっていただければなと思います。

それから、委嘱の件、委嘱がたくさんあるという件です。これはおっしゃるとおり、たくさんあるのですが、全部それぞれ大切な委員さんです。これを誰がやるかというと、市

の職員がやるわけにはいかないのです。そうすると松が岡ファーストの町民の皆さんにそれを委嘱せざるを得ないわけです。まさに松が岡のことを一番思ってもらっしゃる方にその職についていただいて、松が岡の町民の皆さんのためにやっていただかなければならない、そんなことになるわけですし、ぜひそれは町会長さんにご理解とご協力をいただきたいと思います。

ただ、我々も委嘱をする上でいろいろなご協力をさせていただくつもりです。例えば市で皆さんに集ってもらう会があったときにできるだけ重複しないようにします。それから集まってもらったときには研修会や講演会などスキルアップをしていただくような機会をつくりたいと思っています。それから多くの皆さんが参加しやすい日時を選んで開催していきたいと思っていますので、何とか松が岡ファーストということでご理解をいただきたいと思います。

それから、スキルアップのお話がありました。その点は私としても反省をしないといけないのかなと思ってしまして、市の職員のスキルアップ、レベルアップに努めていきたいなと思っています。

そんな中で、情報の共有化がされていないのではないかというご指摘がありました。今までも課・庁内でいろんな会議をやって情報を共有しようといったことはやってきました。例えば今回のようなタウンミーティングをするときに、関係の課長さんたちは同じテーブルについてほかの部署の答弁を聞いたり、それから自分の答弁をつくったりしているということで、このタウンミーティングを通ただけでも情報の共有化が図られています。

それから、月に1回、部長、加えて部門長会議をやっています。その中でも、必ずその部門のいろんな課題や一番大きな政策は必ずその場で言っています。重要なところはこの部門だけではなくてその担当の課長もきちっと把握できるような仕組みも今とっています。

それから、市の職員の勉強会もやってまして、この間も専門の講師を招いて接遇マナーを学びました。市民の皆さんに対して、まさにお客様だというように接するため、笑顔や言葉遣いのレベルアップにも取り組んでいます。例えば外国人の市民の方がいらっしゃったときに、英語ができる職員は何人かいます。さらにインドネシア語や中国語などいろんな言葉をしゃべる方がいらっしゃるので対応できるように、最近便利なものがありまして、タブレットに話すと全部日本語にかえてもらえるようなものがあります。それを導入する予定で、外国人の方にもきちっと対応できるようにしています。それから週2回の延

長窓口サービスがあります。それからマイナンバーカードをお持ちの方は近くのコンビニに行けば住民票の写しなどを出すこともできます。皆様方から何とか日本一笑顔が似合う市役所だと称されるように市役所職員一丸となって頑張っているところですので、ぜひご指導、ご鞭撻をいただければと思います。

【司会】

そのほかご意見をお願いします。

【松が岡住民】

2点あります。一つは、ことし7月号の広報能美に今回の第2次の総合計画、この概要が載っていました。今後10年間、行政の指針とするということで、政策分野で7項目、またプロジェクト等で5つ、これをうまく組み合わせてやっていくということで、ホームページにも詳細が載っていると思います。

2次の前に1次がありました。恐らくこれは平成19年、3町合併後、比較的早い時点で策定されて進めていたと思います。当時、策定したメンバーあるいは部署は大変ご苦労されたと思います。10年間やってきました。去年、いろんな面で住みやすさランキングで上位に来ましたというのはわかったのですが、それ以外のことがあったのではと思うのです。

具体的に、2次に入る前にその1次の振り返りというかどうかわかりませんが、やったことに対して結果がどうだったのか。恐らく（市民満足度調査は）2年ごとにやっているのですかね。

よかった分、満足度調査の中で重要度も高く満足度も高い、子育て支援とか（があります）。一方、先ほどから話題になっています足（交通手段）の問題とか、重要度は高いけれど満足度が低いのもあります。そういった中から聞きたいのが、1次で一番よかったのはどういうことなのか、なぜそうなったのかということです。また逆の場合（についても聞きたいです）。それから2次に、進めていくわけなのですが、1次の検証結果やそれがどう生かされているのか、1次と2次ではどこが違うのか、進め方なのか、内容が違うのか、ということを含わせて教えていただきたいと思います。

それから2つ目、ささやかな提案なのですが、実は私が2年半前からやっていることです。病院にかかっており、例えば血液検査をしてちょっと悪いと、大抵、医者は「何か特別なことはありましたか」と聞きます。「ありません」と言うと、次は「薬ちゃんと飲んでるんですか」と言います。思わず「飲んでいます」と言いますが、実際には飲み忘れが

あります。薬というのはかなり高いので、ささやかですが、2年半前から在庫を報告し、処方箋を書いてもらうときに残量を減らしてもらっています。これは自主的にやっています。ジェネリック医薬品もやっています。一番いいのは薬の飲み忘れをなくことです。しかし、万が一忘れたら、今度診察に行ったときに在庫を報告しましょう。そういう運動をしましょうというのを、例えば出前講座の席などで何か方法を考えてできたら医療費の低減につながるのではないかなと思いました。ということで、薬だけは余ってほかにやるというわけにはいかないのでは、恐らく私の場合は捨てていましたので大変損したなと思っています。こういったことを、ご検討をいただいたらどうかと思います。

以上、2点です。ただ、高齢の云々の件は先ほどいっぱい出ていますので、現状わかりましたので、この2点につきまして市長からお答えいただきたいと思います。

【井出市長】

まず、第1次能美市総合計画は8つの政策分野、49の施策で構成し、その目標値というのを100設けました。そのうち、達成率100%以上が43、それから75%以上が33、50%以上が11、25%以上が9、25%未満が1、そんな構成になっています。その達成率の高い指標にはどんなものがあつたかといいますと、例えば自主防災組織の結成地区数、これが皆さんのおかげをもちまして68地区ということで、これは達成率からいくと目標値に対して170%ということでもあります。

さっき【松が岡住民】さんからご質問いただいた中に、答弁漏れがありました。防災の話ですが、防災計画をどうするか、それから避難訓練をどうするかというのは各町個別で対応してもらえるように市のほうもしっかりと相談させてもらい、それでそれに見合ったものをつくることになっております。そこはご理解いただいて、そんなご協力もいただいている中で自主防災組織の結成数が大変高い結果となりました。

そのほかにもJR能美根上駅の年間利用者数等々も高く、個別の数字はまた一度ごらんいただきたいと思います。

それで、低いものはどんなものがあつたかといいますと、例えば観光ボランティアの登録人数は全くできませんでした。それから給食用九谷焼の食器の活用校数、これも達成率が29%と低く、もともと目標指標に持つてくることに無理があつたというようなものの達成率が低いという状況でした。

第2次総合計画の中では、今申し上げたようなことを反省材料にしていろんな政策や、指標をつくりました。特に大きな違いから言えば、第1次総合計画というのは能美市が合

併してすぐにつくったものなので、旧辰口町、寺井町、根上町時代の宿題をどうこなしていくか、それからいわゆるハードルや壁、溝と言われていたものを、どう低くし埋めていくかというところが、この総合計画の主な内容でした。第2次総合計画というのは、12年たって、その合併効果をいかに伸ばしていこうかというところが主な項目でもあり、それから新たな課題である人口減少問題、これに対してどう取り組んでいくかというところを主に書き直していったのが第2次総合計画です。

そして加えて、違いというのは、これちょっとお恥ずかしい話なのですが、第1次総合計画の場合はどちらかというとつくりっ放しで置いてありました。第2次総合計画というのは、いわゆるビジネス用語で言えばPDCAをしっかりと回していけるようにきちっと定期的にチェックをし、そして指標に対しておこなっているものはさらに次のアクションを盛り込んでいこうというようになっています。そんな体制と組織づくりをつくっているのが第1次と第2次の大きな違いであります。

それから、薬の件です。薬の使用状況をどうこうというのは、個人でしかわからないことでして、これをPRしていくとか、その利用について、何かしていくというのは大変難しいことであることは多分ご理解をいただいていると思います。

そんな中で国は、いわゆる門前薬局、要するに病院の前にある薬局で薬をもらうのではなくて、かかりつけ薬局から薬をもらうという政策を今推し進めようとしているそうです。つまり、病院を3つか4つ行くと、その病院のすぐ前の門前薬局から薬をもらってしまう。そうすると似たような薬をもらったり、合わせて薬を飲んでしまっただけで副作用が起きたりすることを避けるために、かかりつけ薬局というのを国として進めようということを今やっているそうです。

能美市も実際に、その薬を皆さんどんなところからもらっているのかという調査を今始めています。その調査結果に基づいて、能美市民の皆さんが薬をもらっている実態がこんな状況だということを1回把握、分析をして、それを是正するように、広報、それからPRを今後の広報能美やホームページ等々で展開する予定です。

まさに今おっしゃったご指摘はごもっともですので、今、市のほうでもそんなことをやろうとしていますから、また市に何かご意見、ご提言があればあわせてお願いをしたいところです。

④ 人や自転車に優しい道路の整備、消防・防災体制の強化について

【司会】

次のテーマは、人や自転車に優しい道路の整備、消防・防災体制の強化についてです。
このことについてご意見をお願いします。

【荒屋町】

荒屋町は能美市の広報の最初のほうに載せていただきまして、本当にありがとうございます。

全く何もない町なので、本日は消防・防災体制の強化ということでひとつお願いをしたいと思います。

荒屋町は50軒足らずの小さな町内ですが、まず大型車が真っすぐに通れる道路が1本だけです。徳久からうちの町内へ入ってくると大型車は曲がりません。だから東側のほうに1つ周回の道路をぜひとも10年後までにできるようにお願いしたいです。実は、自分の小さいときでもないのですが、隣の家が火事になりまして、消防車が来ても曲がれない、向こうから来たら両方鉢合わせでもうすごいことになっていました。そういう記憶がまざまざとよみがえってまいりますので、ひとつまたよろしくをお願いします。

【井出市長】

私も荒屋町は何回も行ったことがありますし、今回のご質問をいただいて、この間もぐるぐるっと回って見てきました。確かに町なかは狭いです。消防の担当の者にも「もう1回見てきて、ちゃんと確認してきてくれ」と話をしてきました。実際に行って見てきて、その結果をまずご説明したいと思います。

荒屋町というのは、まず消火栓が6基町内にあって、水槽が1基あります。その集落の南側には、消防車が採水可能な農業用水も流れています。消防水利の基準がありまして、それを見合わすと今のところ大丈夫です。だから、真ん中に大きな道路を通さなくても、今言った消火栓と水槽にそれぞれにホースをつないで、大体ホースは20メートルぐらいです。それをつなげれば、一応荒屋町の真ん中で万が一火事があっても消せるという消防の水利になっているとのことです。また私が言っても多分信用できないということであれば、消防の人間に1回行かせて現場でご説明させてもらえればと思いますので、またお申しつけいただければと思います。

「そんなこと言うてもやっぱり道路が欲しい」ということであれば、ぜひ町内会のほうでまたご検討いただき、それからどうしても地権者の方もいらっしゃいます。また、道をつくるということであればどうしてもその町内にご負担をいただかなければならないとこ

ろもあります。そこはまた別途、担当部署にご相談をいただければと思います。

【司会】

では、このほか、このテーマについてご意見等ある方、お願いします。

【下清水町民】

優しい整備、消防ということなのですが、我々、安心して安全なまちづくりという気持ちでやっております。この数年来、毎年のように下清水町を通過している農免道路（の話）が出ていますけれど、非常に交通量が多くなってきて、最悪の事態が起きてはいけないということで市、警察の方へお願いしていましたが、昨年暮れ、凶らずも最悪の事態が起きました。その時点で寺井消防の前署長さんが、改めてこの交通量の多さにびっくりしたと、何とかしないとイケないとおっしゃっていました。

しかしながら、県の安全協会の予算上でいくと年間に、信号機でいえば15基しかつけられないと（言われました）。県内に10カ所の警察署があるので、まず全てつけていったら10個はなくなります。では、残りの5つをどうするかということになると非常に難しい問題があるとのことでした。

能美市はどうなのだろうということをお願いしたら、むちゃくちゃな答えが出てきました。です。「幸いかな、下清水で重大な事故がなかった」と。じゃ、我々はどうしたらいいのですか。我々に犠牲になれというのですか。私は犠牲者一人も出したくありません。その顔を見ながら言いました。「じゃ、あなたそこで犠牲になってください。市長、一番先に信号機をつけるでしょう」。一言も答えられません。当たり前です、私も命大事なら、皆さんも大事ですよ。全員が大事なのです。

昨年の暮れのときに、事故検証のときにある市役所の職員の方が言いました。「予算がないので、信号機とかそういう標識は難しいのです」。ばかやろう、あんたらにすると予算何十万、何百万と人の命とどっちが大事なのですか。明くる日に別の担当者の方からすぐに謝りの電話がありまして、市のほうでこれとこれは確実に実施しますということでもいろいろなことをしてもらいましたが、しかし、せいぜい1週間、1カ月です。警察のほうもしょっちゅう、今も取り締まりをやっているのですが、そのときだけです。きょう現在でも、ただ1カ所の横断歩道、渡るに渡れないのです。きょうも夕方、犬を連れて散歩していましたが、横断歩道の真ん中で、左のほうから車が来るのです。全く（通行人を）無視して、スマホ片手（に運転していました）。そんなところを安心して行けますか。

また近年、幸いなことに新しい団地ができたので小さいお子さんがふえてきています。来年以降、少しずつ小学生、保育園児がふえてきます。私たちは、10年後の未来じゃないのです。きょう現在があって初めて10年後があるのです。そういったところを踏まえた施策をいま一度考えてほしいと思います。

それと、辰口地区で、中央小学校へ通学するのに一番遠いところで、2.7キロくらいあります。ことしは非常に天候が不順な年であり、また各地で悲惨な事故も起きています。そういった中で、真夏の炎天下、下清水の子供が学校から家に帰るときに、日影ができるころはどこにありますか？ 北市町1カ所だけです。それで熱中症防げと言えますか？30年ほどぐらい前から、冬場に関しては通学バスを出してもらっています。非常に私たちは喜んでおります。そういった形で通年運行ということもできないでしょうか。あわせてお願いしたいです。

もう一つは、高齢者が、先ほど言いましたように非常にふえています。市長は、現在のみバスが運行している停車場を、どこだか知っていますか？一番近いところは、事故現場付近です。数メートルしか離れてないのです。そこを毎日、皆さん（バスに）乗らざるを得ないので、怖いけど道路を渡るしかないのです。確かに利用者は少人数で、五、六人いればいいところです。しかし、そんなところで安心して暮らせませんか。私たち、暮らしたいのです。あわせてよろしくお願いします。

【井出市長】

まず、交通事故対策の件からです。

今ほど8件あったということでした、私もどこでどういう事故があったか、現場も見にに行ってきました。今、町会長さんがおっしゃるのは市道下清水出口線の事故のことだと思いますけれども、実際には1カ所で起きているわけではなくて、あの道路の何カ所かで発生しているということですのでよろしいですね。それぞれの事故がどんなことで起きたかということも警察からも聞いてまいりました。その中で、例えば1件は自動車の正面衝突によるもの、ある1件は追突事故であつたりしますし、それから昼と夜の事故が半々だったりします。そうすると、それぞれの事故の要因や場所が違うものですから、それを一概に一緒になくすということは警察のほうでもなかなか難しいというのが実態だそうです。

ですから、町会長さんは、あそこに信号をつくればいいとおっしゃいますけれども、警察のほうは、その事故の状況や場所などを、こう見ていると、あそこに信号をつくることだけで全ての事故がなくなるとは、どうもそんなふうには考えていないようです。町会長

さんは余り取り締まりをしていないのではとおっしゃいますけれども、警察はパトカーをできるだけあそこに配置をしてパトロールをしたり、スピード違反を取り締まったりしており、そうすることでスピードを出す車が少なくなって事故が少なくなるのではないかと、そんなことを引き続きやっていきたいと考えているそうです。それから注意を促すために、地面に目立つ標識があります。そのようなことをしながら注意を促していきたいということです。

実際にその事故を起こした方から事故の原因を聴取すると、考え事をしていて事故を起こした方が多いという実態もあって、さっき申し上げたようなことを引き続きやっていくことで事故の撲滅をしていきたいということです。私どももそんな警察と協力しながら、やはり何とかこの下清水出口線での事故が少なくなるように、撲滅できるように取り組んでいきたいと思っております。

それから、下清水の町会長さんも、町会長さんだけではなくて市民の方にも本当に多くの皆さんがあそこに立って協力をしていただいているのではないかと思います。また引き続きそんなこともお願いをさせてもらえればという思いです。

そして、通学バスのことについてです。

ちょっと私、そこを把握してないのですが、どこかのバスが下清水町の子供たちだけを送迎しているということですか。

【下清水町民】

いや、中央小学校から2キロ以上の通学距離のある町内の子供さんを冬場だけ、今は12月から2月の3カ月間送迎していただいています。朝はそういう形で利用をさせてもらっています。最初はもっと範囲が狭かったのですが、近年、2キロ以内のところもかなり利用されていると聞いております。

そういったいい面もあるので、一番怖いのは、やっぱり事故もそうですけど、近年、全国で、嫌な事故・事件が多数出ていますよね。幸いかな、能美市内でそういったことは聞いてないのでうれしいのですが、あつてはならないことなので、そういったことも含めて、他の校下も含めて、よろしくご考慮のほうをお願いしたいなと思います。

【井出市長】

ちょっとそこはまた実態を調べさせてください。私、今それを把握してなかったものですから、状況を、また実態を把握してから町会長さんのところにご回答させていただくようにします。

ぜひ、交通事故に関しましては我々も何とか撲滅したいという思いはありますので、またぜひご協力、ご理解をいただきたいと思います。よろしくお願い申し上げます。

⑤ 歴史・文化・伝統の継承について

【司会】

テーマは、歴史・文化・伝統の継承についてです。ご意見ある方、お願いします。

【緑が丘民】

伝統芸能の分野の発展、継承人口の増加という大きくテーマがありますけれども、その提案です。

今現在、私が携わっている世界で私が感じていることですが、（歴史・文化・伝統の継承対策について）今のままでは一部の人の体験活動で終わってしまいます。末永く絶えることなく次代の文化継承につながっていくためにも、小学校、中学校で啓蒙、宣伝していただいて希望者を募り、学校現場で、市当局からの財政補助もいただいて歴史・文化・伝統の継承対策を希望いたします。もちろん経費だけでなく指導者も必要になってきます。現在、能美市邦楽協会では旧3町ごとに指導者もおいでますけれども、それぞれ個人の見解もありますので、その中でこの趣旨に賛同の方に、もし実現が可能であればご相談賜ればと思っております。よろしくお願いします。

【井出市長】

実はきのう、文化団体さんとのタウンミーティングがございまして、ほかの団体さんからも同じようなご要望がありました。伝統芸能をやはり長く受け継いでいってもらいたい、そしてさらに広めていきたいという思いをお持ちの方はほかにもたくさんいらっしゃいました。きのうもそのお答えをさせていただいたのですが、実際の小中学校のほうでは、学習指導要領というのがありまして目いっぱい授業が入っております。そこに、例えばある伝統芸能だけをそこで教えていくというのは、これは大変難しいことでして、学校の中でそういったものを伝えていくというのは実際にはなかなかできないということです。

ただ、先ほどちょっとご紹介をしたジュニアサークルというのがありまして、最近、学校が土曜日、日曜日、祝日が休みだということで、土曜日にジュニアサークルというものを開催している、そんな文化団体もあります。例えば書道さんがそうだったりしました。ぜひそのような、ジュニアサークルを開催されてみてはいかがかなと思います。それで開

催されれば、我々能美市もそんな新しいサークルができましたよということもご案内しますので、そこで興味がある方がまたそちらのサークルに顔を出されるのではないかなと思います。

それから、やはり伝統芸能にもっと市民の皆さんに広く接していただくような、そんな機会も必要なのではないかなと思っています。子供たちにその接する機会があればと、例えば子供たちが出るようなイベント、立志式などで伝統芸能の皆さんに披露をさせていただいて、その伝統芸能のすばらしさを実感してもらい、そこでジュニアサークルがあれば行ってみたいなど、そんな子をふやすような取り組みをしていきたいと思っています。

⑥ その他について

【司会】

最後はその他についてです。何かご意見ある方、挙手をお願いします。

【徳久町民】

本来なら、十数年前であれば、こういう会合であつたら市長はネクタイを締めてびしっとするところでありますけれども、平成17年にクールビズというものが国の指導になっておりまして、もうこれで12年ほど経過しています。

そうした中で、そのクールビズとあわせたクールシェアスポットの導入が図れないかということです。クールビズからさらに踏み込んだのがクールシェアということでして、きょうも大変暑い日でしたが、この夏場の各家庭の電気料、その56%は冷房機が占めていると聞いています。

能美市としてこのクールシェアの浸透に力を入れていただきまして、市民に対して一度、エアコンの使い方の見直し、あるいは家族、地域で楽しみながら涼を分かち合い、節電に取り組む活動の周知徹底を図ったらどうかということです。特に公共施設等のクールシェアスポットの定着を目指して活用を促したらいかがでしょうか。先ほどから高齢者対策、福祉のところでも出ていましたが、いきいきサロンあるいは閉じこもり等々の予防にも効果が発揮できるのでないかと思います。

私たちの徳久町では月2回、公民館を活用したカラオケの集い、要はクールシェアスポットを開催しております。有志によるカラオケセットや大型テレビ、スピーカーなどの寄贈を受けて楽しんでいるところです。そして、そこに集う方々の日常話題が新鮮かつ最新の情報として共有されます。町内の皆さん方の生活の現況あるいは健康状態、町内の不具

合のある箇所など、さまざまな情報がそのカラオケの場で発信されます。当町の場合は、そういった有志の方々がおいでましてすばらしいクールシェアスポットが定着しようとしています。市全域にこうしたクールシェアスポットの整備が図れないか、手だてを考えられないかということです。

10年後にはこれまで以上に温暖化が進行して、地域や家庭におけるコミュニケーションの衰退も強く懸念されるところであります。能美市発信の温暖化抑止、井戸端会議の情報収集、そして閉じこもり予防など複合的に集約した、そうした新しい企画を期待したいと思います。

【井出市長】

ご存じの方が多いのでしょうけれども、いしかわクールシェアという事業がありまして、これは石川県がやっている事業です。今ほどご説明があったように、電力需要が高まる夏場に家にいないで、家のエアコンを消して、それで公共施設のエアコンのきいたところにみんな集まり、家計の消費電力を下げることで環境問題に取り組もうというものです。その指定されたポイント（＝クールシェアスポット）のところに行くと判こがあって、その判こを5個集めて応募すると抽選で景品がもらえます。実際に能美市の中でクールシェアスポットになっているのは、例えば辰口地区でいいますと、宮竹の児童館、岩内の児童館、久常の児童館、緑が丘の児童館、国造の児童館、辰口の福祉会館、博物館、図書館、里山の湯等です。実際に能美市の中で一生懸命になっているのかというと、ご指摘のとおり、余り利用されてないのが実態です。

それで、この徳久の取り組みを聞きまして、高齢者かがやき支援室が、これはいいなと言っています。例えばいきいきサロンを能美市で展開しても、いつも同じ人ばかりが集まり、男性がなかなか行きづらいという実態があったらしいのです。そこに、環境問題を一緒に取り組みませんかという冠をつけて、いきいきサロンを開催したらどうかと話して、一緒に来れば楽しいだけでなく環境にも優しいとPRして、今まで行っていた会のさらなる充実を図っていきたいと思っています。

ご存じだと思いますけれども、クールシェアだけでなくウォームシェアというのも冬になるとありますので、もう夏は終わりますけれども、ウォームシェアもやってみたいなと思っています。またぜひご提言、それからご支援いただければなと思います。

【司会】

では、このほか、ご提案、ご意見ある方いらっしゃいましたら挙手をお願いいたします。

【上清水町民】

私、水のことは余り知らないのですが、教えていただきたいです。能美市はずーっと手取川の左岸に位置しており、水の大変豊かなところでその恩恵に随分浴してきていると思います。それがいつの間にか何かちょっと厳しいみたいなことをお聞きします。例えば井戸の本数をふやすとか、あるいは県水を導入するとか、それは一向に結構なのですけども、そればかりというよりも、要するに伏流水の保全、量の確保といいますか、当然市だけではできませんが、そういう取り組みができないものかなと思ひましてお聞きしました。よろしくお願いいたします。

【井出市長】

私もまさか能美市が水で苦勞するとは思っていなかった一人です。本当にいつまでもおいしい水が、冷たい水が豊富にあり続けていると思っていましたけれども、今、皆さんご懸念の状態になっています。いろんな要因、原因が言われていますが、一つには、雨、それから雪の量がやっぱり少なくなっているということが一つあります。それからもう一つは、何年か前に起きた手取川上流での崩落事故も原因ではないかと言われています。

ただ、幸いことは、やはり雨量が多いせいか、今のところ、井戸の水位は安定的に保っているところであります。

おっしゃるとおり、能美市の中でも県水を入れたり、それから新しく井戸を掘ったりしていますが、井戸もこれ以上は掘れないというのが実態です。掘ってしまうと別の井戸のところの揚水量が少なくなってしまうという実態でして、そうなるといかにして節水していくかということだと思います。

実は企業さんにも節水をしていただいています、企業さんにはたくさん水を使っているのですが、今回の渇水状況の機会にいろんなご協力をお願いをして、今まで使いつ放しだった水をもう1回りサイクルして使うなど、システムを変えてもらったりしてご協力をいただいているところであります。

急場で、これも皆さんにご迷惑をおかけしているのですが、消雪装置は、今まで結構勢いよく流していたところをちょろちょろと流しています。今まで当たり前にあった水を大切に使うという取り組みをしながら、本当に我々の後世の何年後の世代の人たちにも今の水を引き続き使っていただけるようにしていきたいと思っています。

【司会】

では、お時間も参りましたので、本日のタウンミーティング、ここで閉めさせていただきたいと思います。最後に、井出市長がご挨拶を申し上げます。

【井出市長】

皆さん、長時間にわたりまして、やっぱり2時間たってしまいました。本当に熱心で深掘りしたご質問をたくさん頂戴しました。本当に私自身も大変勉強にもなりましたし、きょう市役所の職員もたくさんの人数がここに来ているのですけれども、皆さんの課題や悩みを共有させていただきました。

タウンミーティング、きょう12回目ですが、こうやって町会・町内会の単位にさせていただいている一方で、テーマごとにもさせていただいています。先日も婦人会さんを対象に、それからきのうも文化団体さんを対象にさせてもらいました。きょうは、どちらかという、各町のお悩みというか課題をたくさんご質問、ご提案をいただいたと思います。

その一方で、例えば子育て世代の方々がどんなお悩みを持ってらっしゃるのか、それから介護や、障害をお持ちの方、そんな方もいらっしゃって、そんな方々がどんなお悩みを持っているのか、どんな提言をされるかということもやってみたいと思います。

それから移住をされてきた方、やはり能美市に初めて来られた方なんかもいろんなお悩みを持っていたり、提案もされたりするのではないかと思います。そんな方々ともさせていただきたいと思っておりますし、それから、きょうせっかく来ていただいてもなかなか発言できなかったという方もいらっしゃるかと思います。

このタウンミーティング、ことしから始めましたけれども、これからもやっていくつもりでありますし、来年も再来年も、そして4年後もしっかりさせていただくつもりです。それからタウンミーティング以外でも、市役所にいますし、また皆さんからお祭りにもご案内いただいていますので、そのお祭りに行ってビール片手にいろんな話をさせていただきたいと思っています。

いずれにしても、市役所の中だけでひとりよがりにならないように、本当に皆さんからの情報やご提言を共有させてもらいながら、皆さんがいつまでも笑顔で、そしてこのまちに住んでいたいなど、そんなまちにしていきたいと思っていますので、長時間にわたりいろんなお話をさせていただきましたけれども、御礼を申し上げまして、これで閉じさせていただきたいと思います。

きょうはどうもありがとうございました。